地域×桐朋女子

～地域に根付く学校になるために～

はじめに

「６年間桐朋女子に通ったけど、地域のことは全然しらない」

生徒のこのような声が、私たちの企画のはじまりです。
我が校は残念ながら地域との結びつきが少ないです。私立学校だからなど、さまざま理由はあるかもしれません。

ですが一番の原因は、「桐朋女子が地域にひらかれた学校になる努力をあまりしていない」ことにあると思います。
これを私たちは課題であると考えました。

最終目標は地域に根づいた学校になること。
地域と学校が結びつくことでコミュニティの輪が広がるだけでなく、信頼関係が気づける、相互に助け合える。

私たち高校生は地域から沢山のことを学べるはずです。

今回私たちは地域で精力的に活動をなさっている方に取材をし、記事を書くことにしました。
桐朋生が地域の魅力に気づき、地域の方が桐朋の魅力に気づき、また地域の方が地域の魅力を再発見できる、そんな記事になっているといいなと思います。

今回のこの活動は、まだはじまりに過ぎません。
これを機に、桐朋が今よりもっと地域に貢献し、愛されるそんな学校になってほしいです。

地域の方にたくさんの取材のご協力をいただきました。
皆様から多大なるご協力を頂きましたことを、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

目次

クッキングハウス　p３

先生へのインタビュー　吉崎先生　p ９

調布市青少年ステーションCAPS　p 11

生徒たちの声　p 14

山内ぶどう園　p 16

調布市選挙管理委員会事務局　p 19

東部公民館　p 23

共にこの街で心豊かに暮らしていきたい

クッキングハウス

誰だって人生の途中で心が疲れたり、
病気になることがあるはず。
心を病むことは自分とはかけ離れた世界のことではなく、
隣にあることだ。

自分らしさを取り戻せる居場所
―クッキングハウス―

「心の病気を抱える人たちと共にこの街で暮らしていきたい。そのような思いがクッキングハウスには詰まっています。」

こう語るのは、NPO法人「クッキングハウス会」代表の松浦幸子さんだ。クッキングハウスは、統合失調症や強迫性障害、うつ病など、心の病気を抱える人たちが、食事を通して交流をする場所である。

調布駅から5分ほど歩くと、「クッキングハウス」と書かれた黄色いのれんが見えてくる。店内は木のぬくもりが感じられ、安心感が得られる。レストラン「クッキングハウス」では、季節の旬の野菜を使った日替わりランチを提供している。献立はクッキングハウスのメンバーが話し合い、決める。こだわりの食材を使ったご飯は、地域の人にも大人気だ。取材に伺った日も楽しそうに食事をする親子の姿が見受けられた。

美味しいごはんを一緒に

クッキングハウスが開かれたのは1987年。12畳のワンルームから始まった。その頃、日本の精神医療福祉の世界は依然として閉鎖的であった。松浦さんは、病院の入院患者さんがプラスチックの容器でご飯を食べている様子を見て、これではいけないと感じたという。「一緒に温かいごはんを「美味しいね」と言いながら食べる空間が必要だと思いました。ご飯を食べることで人は元気になることが出来ます。まずは食事の場から精神医療福祉の現場を変えていきたいと思った。」

（右）　クッキングハウスの入り口

自分らしさを取り戻せる居場所を

クッキングハウスには四つの理念がある。

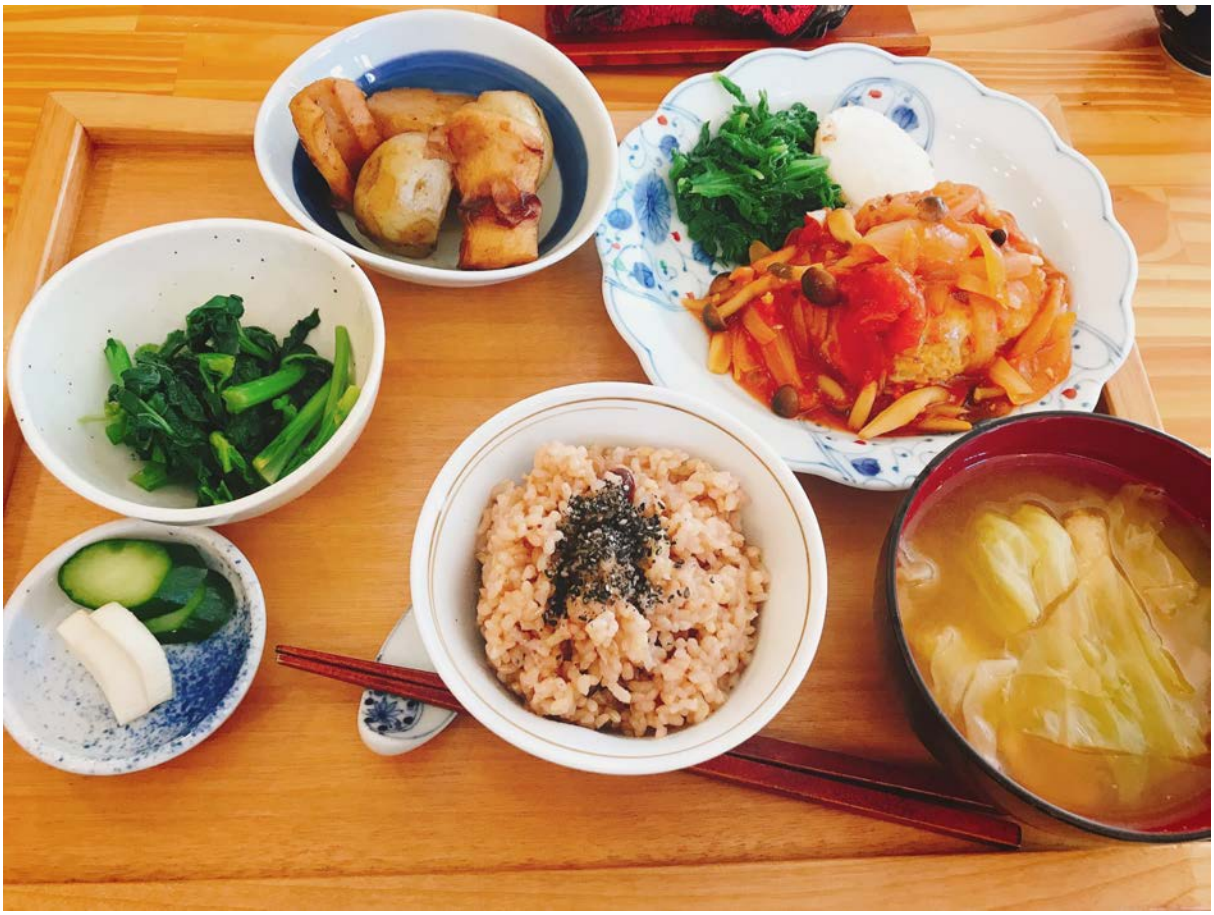
一つ目に、安心して、自分らしさを取り戻せる居場所であること。二つ目に、メンバー一人一人が、必ず誰かの役に立っていることを、確信できる場所であること。三つ目に、弱い人の立場に添った新しい福祉文化を創造する場であること。四つ目に、いつも開かれた市民交流の場であること。この理念のもと、クッキングハウスでは安心感や安全を提供し続けている。松浦さんは「どんな存在であっても、まずは生きていることが大事と伝えたい。」と話す。

社会参加の意味

クッキングハウスをはじめて5年が過ぎた1992年、地域との結びつきを作るために、新たにレストランをオープンする。お店を開くために資金を市民協力債権により集めた。資金協力を地域に呼びかけ、710万円を集めた。

お店を開くことで大きく変わったことがある。レストランに来たお客さんにお茶を出したり、掃除をしたりすることで、ありがとうと言われる、お給料が出る。そうすることで、心の病に苦しんでいたとしても、社会の一員として役立っているのだという自信を取り戻す場所にもなった。今ではレストランやお菓子販売などの収益を使って、旅行にもでかけているという。

「クッキングハウスのメンバーには病気などが原因で、社会で働いた経験が少ない人もいます。するとより一層、社会生活が始まったとき失敗が多くなってしまう。そのことから辛くなってしまったり、孤立をしてしまったりと悪循環に陥ってしまいがちです。地域の中で、否定をされず、一緒に生きていく、そんな経験も出来る場にクッキングハウスはなりました。」



（右）　取材の日のお昼のメニュー

豆腐ハンバーグ・じゃが芋の炒め煮・　野良坊の辛子和え・玄米ご飯・お味噌汁

（右）　クリスマスコンサートの写真

市民の方が演奏をしに、クッキングハウスを訪れた。

クッキングスターの開設　夕方からでも語り合える場を

クッキングハウスのレストランオープンから5年後、地域で自立支援や就労支援を行う居場所として、「クッキングスター」をレストランの二階に開設。夕食作りやメンタルヘルスの学習会などの活動を行っている。

クッキングスターでは夕食も一緒に食べることが出来る。この活動はひきこもりの支援がきっかけとなった。「昼夜逆転をしてしまい、夕方からしか動けない」そんな声からこの取り組みは始まった。松浦さんは「他の精神福祉施設は15時ごろに閉まってしまうところが多い。そうすると、夕方以降に支援が必要な人は、行くことは出来ない。夕方からご飯をつくり、一緒に語り合う場を作りたいと思った。」と話す。実際、クッキングスターでの夕食に参加をしたことで、ひきこもらず家から出られるようになった方もいたという。

クッキングスターの部屋は様々な工夫がされている。メンバーで一緒に料理が出来る移動式の台所、薬の副作用で眠くなってしまったメンバーが休め、かつ個別に相談したいことを相談できる個室、みんなで歌うためのピアノなど、過ごしやすい環境が作られている。

生きるために、寄り添うために

クッキングハウスでは、SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）も学ぶことが出来る。SSTとは、入院生活やひきこもっていたことで失われてしまったスムーズな対人関係の作り方や楽にできる行動のとり方を、ロールプレイで学べるというものだ。メンバーの多くはSSTを学んだことで、日々の生活が過ごしやすくなったと話す。当事者の家族向けのSSTも開催している。不安な生活をしている当事者やその家族を支える講座となっている。「クッキングハウスに通われる多くの方は、社会の中で拒絶された経験を持っています。家族も心の病

気をした我が子の回復を見守り、応援したい。でも、どんな接し方をしたらいいのか戸惑ってしまう。クッキングハウスという場でつながっていくことで不安を抱えている当事者やその家族の孤立を少しでもなくしていけたら」と松浦さんは話す。

またクッキングハウスでは、市民の方や当事者、その家族の方向けにメンタルヘルス講座を行っている。病気になった自分を受け入れるために何をしていくべきなのか、どのようなサポートがあったら回復していくのか、松浦さんのお話やメンバーの経験から学ぶことが出来る。

不思議なレストラン

取材に伺った日、クッキングハウスのメンバーから、それぞれの経験を伺うことが出来た。メンバーの多くは人間関係や過労など、様々な要因が重なり、病気を発症してしまったという。メンバーの1人は「クッキングハウスに来た当初は、寝ていることが多かった。休みたいときに休める環境だったので、通い続けることができた。」と話す。親御さんからの自立をめざしているメンバーもいる。「クッキングハウスで夕食作りをすることで、包丁を使えるようになった。自炊することをめざし、練習中です。」

しかし、なかにはまだ病気の症状に苦しむメンバーもいる。「通りですれ違う人に悪口を言われているような幻聴が聞こえる。しかし、家から出て、クッキングハウスに通えるようになりました。」と話してくださった。

そんなメンバーやスタッフの思いが詰まった歌が、クッキングハウスにはある。以下に紹介をする。

不思議なレストラン

【作詞】笠木透　【作曲】山本忠生

一人ひとり　それぞれが
胸に抱いてきた
悲しさという名の　透明な水を
ヤカンにつめて　お湯を沸かそう
白い湯気が　立ち上って行く
お茶を入れて　みんなで飲もう

※外には冷たい　風が吹いていても
ここは暖ったか　クッキングハウス
不思議なレストラン
こころの居場所
ここに居ても　いいのですね

一人ひとり　それぞれが
握りしめてきた
寂しさという名の　固い木を
タキギにして　ストーブを燃やそう
赤い炎が　音を立てている
ストーブを囲んで　みんなで　夕ご飯

（右）　かぞえ歌をみんなで一緒に

高校生に求めること

松浦さんに、桐朋女子の生徒への要望を伺った。

「ぜひ、一度クッキングハウスに来てみてほしい。」と松浦さん。メンタルヘルス講座やクッキングハウスの見学会などに参加をしてくれると嬉しいと話してくださった。

クッキングハウスのパンフレットにこのような言葉が書かれている。

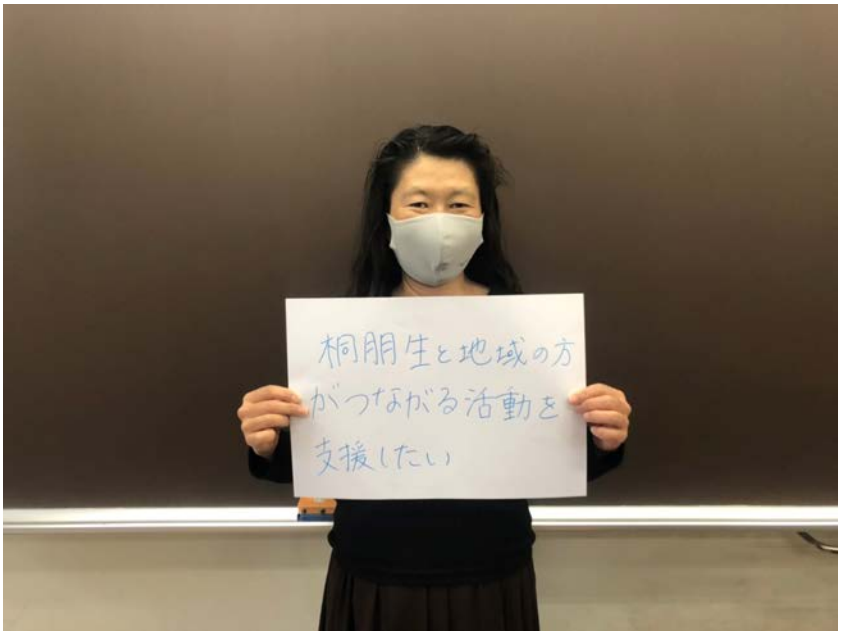
「心を病むことは自分とはかけ離れた世界のことではなく、隣りにあることだ。」

私たち高校生は普段、メンタルヘルスや精神医療福祉について考える機会は少ないかもしれない。しかし、心を病むことは全く関係のない世界の話ではない。より多くの人が知ろうと、積極的に関わっていく。そうすることで共に暮らしていくということが実現するのではないか。

取材・文　小峰結

地域×桐朋女子　～地域に根付いた学校になる為に～

桐朋女子の教諭　吉崎亜由美先生へのインタビュー



吉崎先生が考える桐朋女子が地域に根付くためにできること

Q. 地域に根ざした学校になる為に、現在取り組んでいることは何ですか

A. 学校と地域がつながる活動を推進、支援しています。地理や部活動のフィールドワーク、高3決定者講座を通して、地域の見る視点を学び、地域の課題を発見し、その課題の解決策を考え、実行する主体性・行動力を養うことが、大切だと思います。そして、地域清掃や選挙啓発活動などのボランティア活動を生徒主催で行うための支援をしています。生徒に活動の場を提供するだけでなく、私自身も大学やＮＰＯの研究会、学会に参加し、先進的な地域連携の活動実践や理論を学んでいます。

Q. 桐朋女子の魅力は何ですか

A. 「こころの健康、からだの健康」という教育の基本を目標に掲げていることです。また、桐朋女子では、「経験学習」を通して、生徒の主体性を育むこと、そして、生徒に寄り添い「対話」による教育を目標としています。経験を言語化することを通して、生徒の創造性を養い、時代を担うリーダーを目指す教育を行っています。

Q. 桐朋女子をどのような存在にしたいですか

A. 教育目標を実現するために、桐朋生が地域や社会で学び、地域・社会で育ち、地域や社会と連携しながら、課題を解決し、桐朋文化を通して、〝地域に豊かさをもたらすことができるような学校〟にする事が私の夢です。

インタビューを通して

吉崎先生の授業は、会話で溢れていて楽しかった。疑問に思ったことや分からないことを口に出すことで、新たな課題が見つかる。生徒間だけでなく、先生との〝対話〟を通して行われる授業は、とても魅力的だ。

取材・文　渡邊貴子

調布市青少年ステーション　CAPS

中・高校生世代のための児童館

交通アクセス

京王線西調布駅　徒歩５分

利用出来る人

市内の中学校、高等学校に在学中、又は在住、在勤している人

開館時間

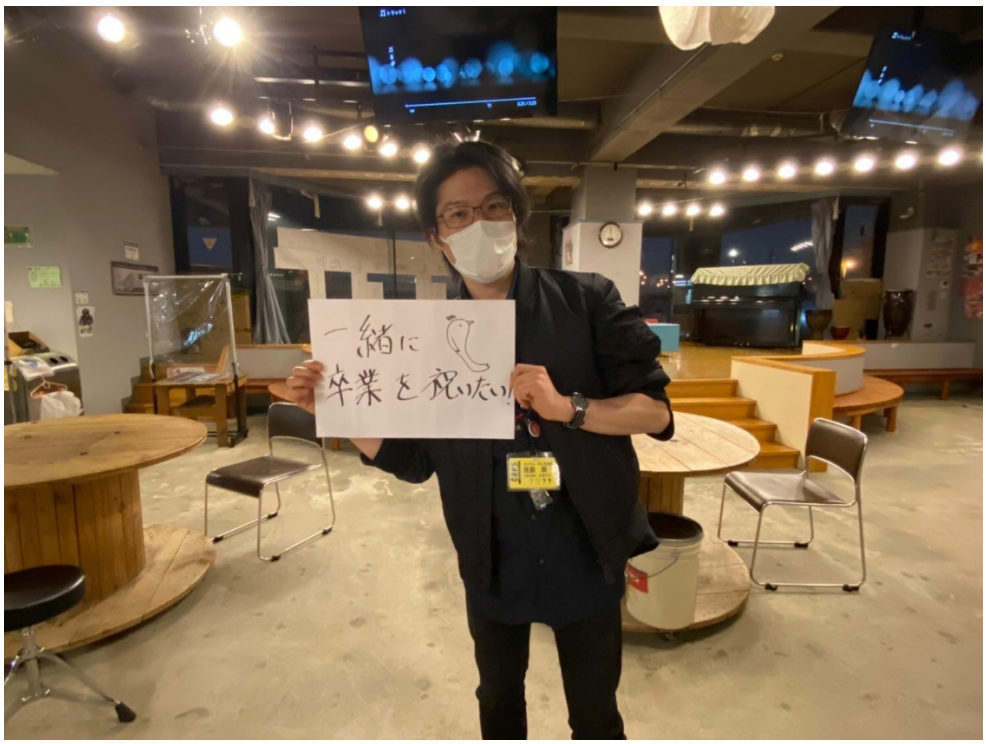
午前１０：００から午後８：００まで

休館日

- 第２・４月曜日

（祝祭日の場合はその翌日）

- 年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日）



自然と声を掛け合える関係を目指して

実際にＣＡＰＳに取材に訪れスタッフの方にインタビューをさせて頂きました。

質問１　現在、桐朋女子高等学校の生徒はどのくらいの人数利用させて頂いているのでしょうか。

Ａ　今年度の利用登録者は以下の通りです。

一年生　０人　二年生　１３人　三年生　４４人

新型コロナウイルスの影響もあり、一年生の登録が少なかったです。

質問２　桐朋女子の生徒に対してどのようなイメージをもたれていますか。

特に悪いイメージはなく、普通の高校生といった感じです。開館当初（平成１５年）に比べると利用頻度が減り、イベント等に積極的に参加してくれる人が少なくなってしまった印象です。私たち大人と積極的にコミュニケーションをとってくれる人が少ない為、あまり打ち解けられてない感じがします。

質問３　施設としての取り組みによって、どのような地域を目指していきたいと構想されていますか。

Ａ　中高生が地域のイベントに参加することで異世代交流の機会が生まれます。会話の機会をつくることで双方の抵抗感がなくなり、お互いが地域に溶け込むことが出来ます。いつかは、通りすがりにみんなが挨拶を交わす地域になればいいなと思っています。

質問４　桐朋女子高等学校の生徒が地域との関わりを持つ中で貢献できることがあれば教えて頂きたいです。

Ａ　色々あります！特に高校生の力を必要としている団体はたくさんあると思います。例えばボランティアには次のような団体が挙げられます。

・子ども食堂

・児童館

このようなボランティアの情報は、市民活動センターや学校等の掲示板で手に入れることが出来ます。

ＣＡＰＳの方に相談すると、沢山情報を頂くことができます。

編集後記

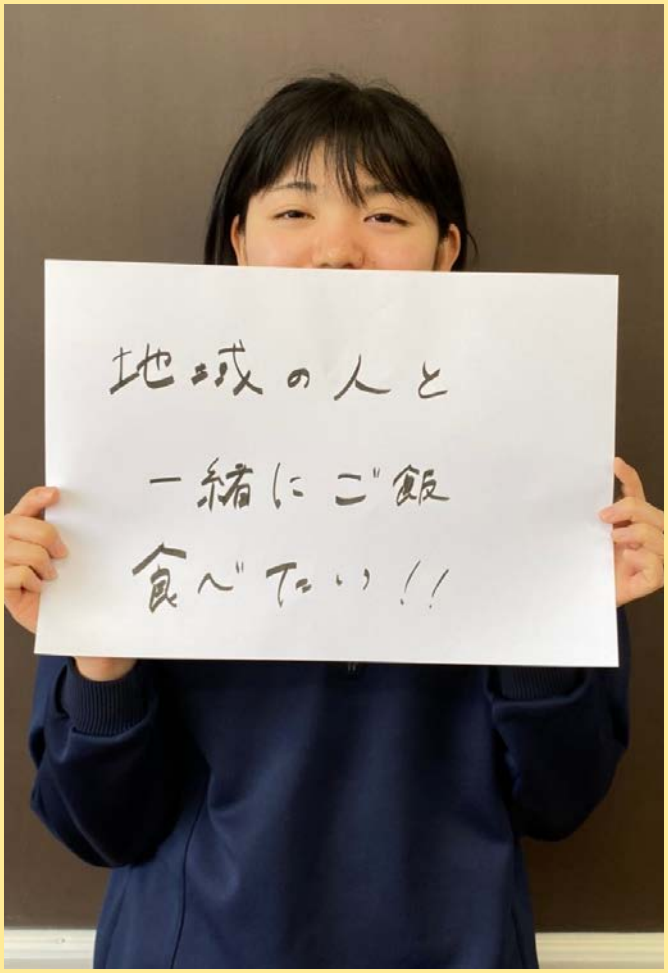
私は、今回この記事を書くにあたって初めてＣＡＰＳに足を運びました。率直に、もっと早くこの施設のことを知って、利用していればよかったと思いました。夜２０時まで開いているので、部活や委員会で忙しい桐朋生も利用しやすいのではないかと感じました。イベントやボランティア等積極的に参加していきたいと思います。

ＣＡＰＳの職員の皆様、貴重なお時間をありがとうございました。

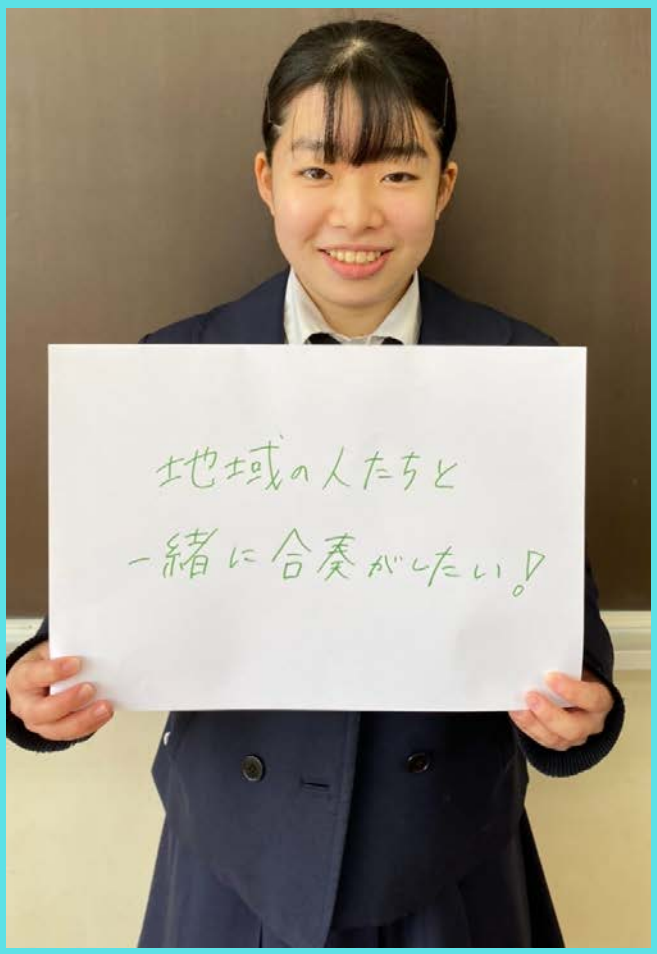
取材・文　高崎　晴菜

生徒の声

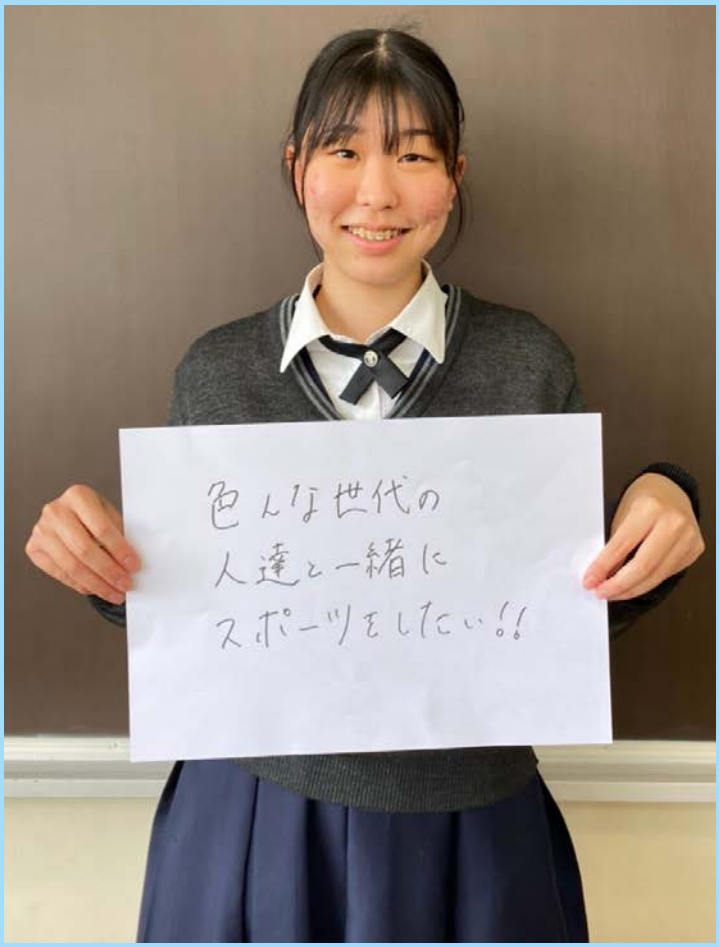
桐朋の生徒に、地域の方としてみたいことを聞いてみました



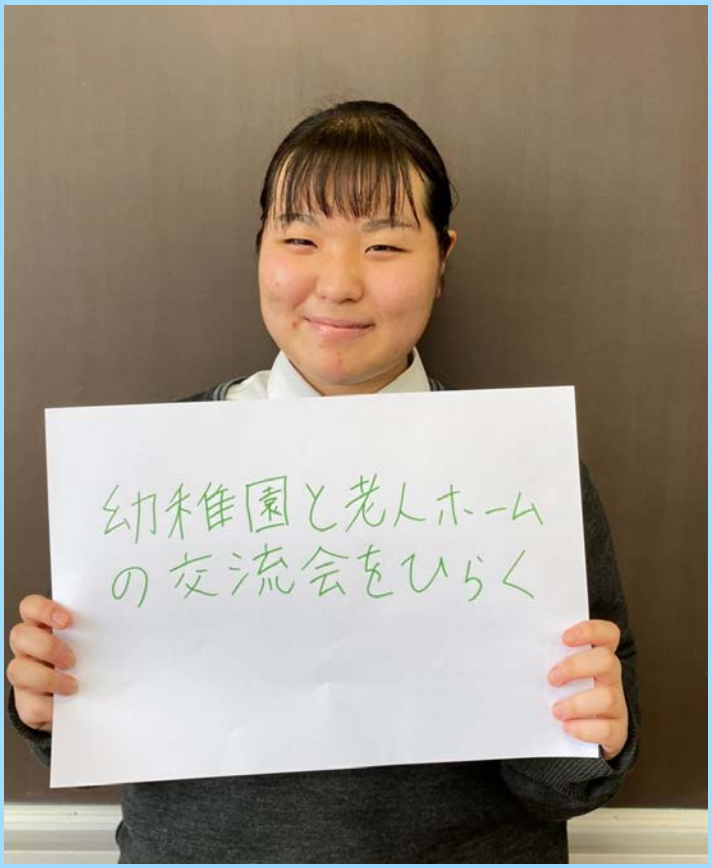
一緒にご飯を食べたい



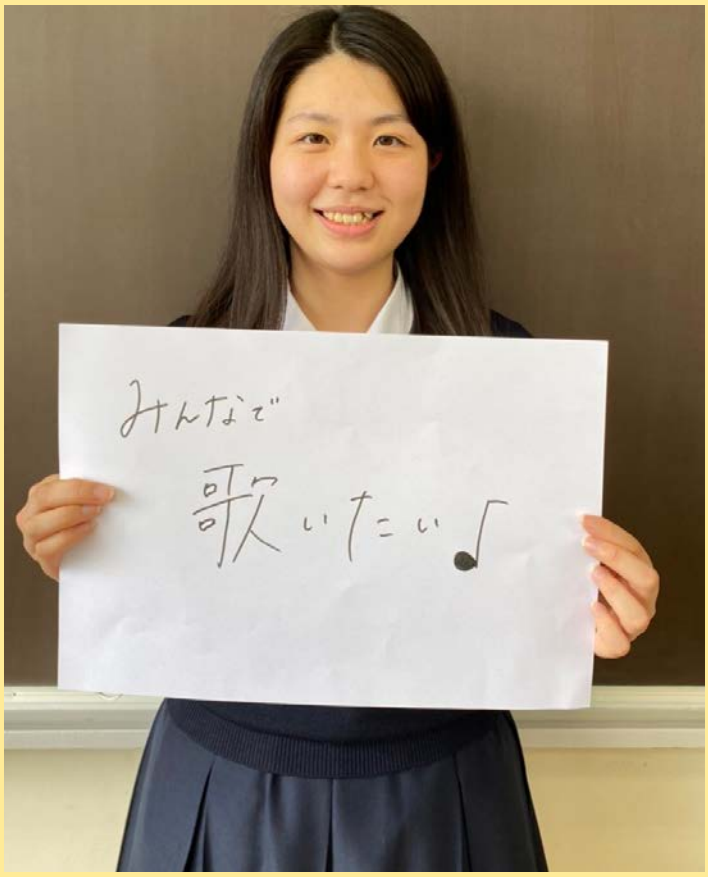
一緒に合奏がしたい



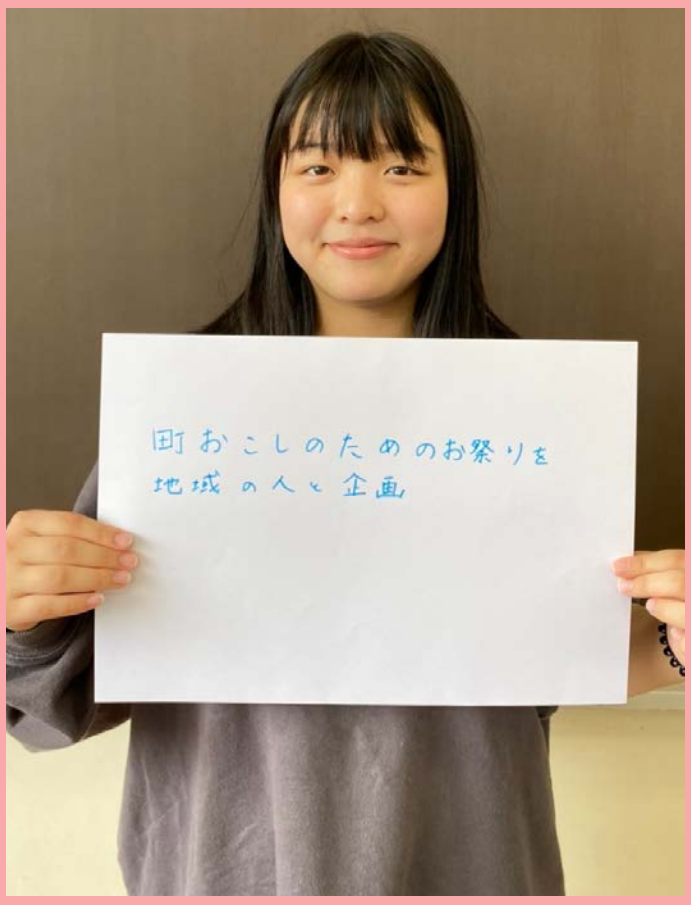
スポーツをしたい



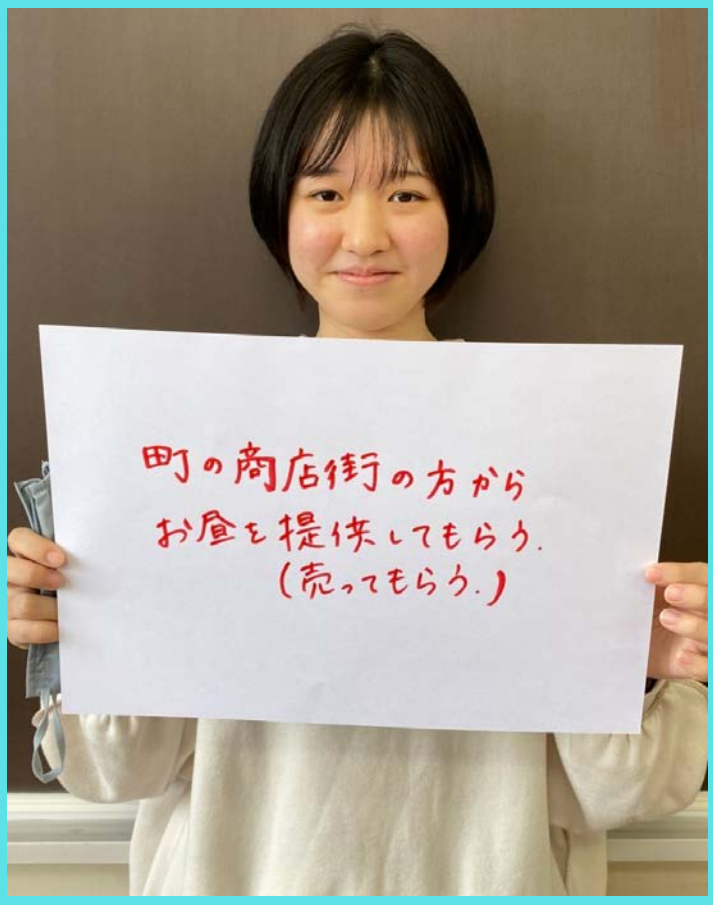
幼稚園や老人ホームと交流したい



一緒に歌いたい



町おこしの為のお祭りをしたい



商店街でお昼ご飯を買いたい

旬のイベントを届ける

山内ぶどう園

新たな都市農業をめざして
ー山内ぶどう園ー

京王線仙川駅から徒歩十分、桐朋女子中高等学校からわずか5分、都立神代高校の前に山内ぶどう園はある。「こんな街なかにぶどう園があったとは」そう驚く人も多いのではないか。山内ぶどう園では、100種類以上の果物や野菜の栽培を行い、収穫体験出来るようなイベントを行っている。今回は、山内ぶどう園を経営する山内美香さんにお話を伺った。

自分の生まれ育った農園を残す

現在農業を営む山内さんだが、高校卒業後は芸術系の大学に進学。デザインを学んだ。大学卒業後はデザイナーとして働いていた。しかし「いつかは農家を継ぎたい。」そのような気持ちを山内さんは持っていたという。その後お父様が亡くなられたことがきっかけとなり、農園を継ぐこととなる。

農業とデザイン

デザイナーとぶどう園の経営。一見全く異なるように思えるが、共通する部分も多くあるという。「デザイナーはクライアントの目線に立ち、作品を制作します。農業も同じです。ものづくりの精神は似ている。」

イベントの広告やFacebookの写真などもデザイナーとしての技術を活用している。山内ぶどう園につくと、出迎えてくれる看板も山内さん自身がデザインしたものだ。

（右）山内ぶどう園写真　8月の中旬から下旬になるとぶどうが実る

桐朋女子での行事も一つのきっかけ

農園を継いだ山内さんは、今まで行ってきたぶどう狩りだけではない、体験型のイベントを開催した。週末に旬の野菜を収穫するショートコースの農業体験から、自分たちで育てた野菜を収穫し、料理をするというロングコースの農業体験まで、今までにはないイベントを行った。「（農園を）継ぐときに、今までと同じことをやるのではだめだと思った。」と語る。

新たなことに挑戦をしようとする原動力の一つに、桐朋女子での経験があるという。山内さんは、我が校、桐朋女子中・高等学校出身である。桐朋女子の体育祭や文化祭といった行事で熱中をした経験が、今イベントを開催する一つのきっかけになったそうだ。

旬を楽しむイベント

山内ぶどう園では一年を通してイベントを開催している。春はたけのこ掘り、夏は流しそうめんをレーンづくりから行い、採れたての野菜で作った天ぷらと共に楽しむ。秋はぶどう園にある石窯を使ったフルーツピザ作り、冬は餅つきをして採れたての大根おろしと一緒に頂く。山内さんは「イベントを通して、野菜の旬に興味を持ってくれたら嬉しい」と話す。

地域とのつながり

農園全体を運営し、多くのイベントを開催するには人手の確保が必要だ。そこで農園を手伝う「農作業ボランティア」を山内ぶどう園では募集している。近くに住む主婦の方などがボランティアとして参加をしている。少し空いた時間に、山内ぶどう園に来て収穫や果物や野菜のお手入れを手伝ってもらっているという。手伝って頂いたお礼には不揃いのお野菜や果物などをお渡ししている。「農作業を初めてするボランティアの方もいます。ボランティアを通して、地域との繋がりや交流が生まれることがあります。」

その他にも地域との繋がりがある。直売所で野菜や果物を売ったり、地域のお店にも野菜や果物を卸したりしている。地域の食材を地域で食べる地産地消を広げようと行動をしている。

高校生に求めること

私たち高校生への要望を伺った。

「まずは、旬の野菜を知ってほしい。」と山内さんは話す。「野菜や果物は私達の体を作るものです。これから先、自分の子どもに食事を作るようになるかもしれない。そのような可能性がある高校生にはぜひ、旬がわかるようになってほしい。」

大人にも旬の野菜を知ってほしいと、山内さんは「大人の食育」というイベントを計画中だ。夕方に集まり、野菜を収穫。収穫したものでピザやおつまみなどをつくり、頂く。「農作業を少しでもしてみることで、日々の食卓も豊かになるはずです。」と語ってくださった。

山内さんは農作業や旬に興味を感じる中高生がボランティアやイベントに参加をしてくれるのをいつでも待っていると話してくださった。

私自身、今回取材をするまで学校のこんな近くにぶどう園があるとは知らなかった。これから先、学校帰りに「今日、山内さんのところで種まきがあるらしいよ。手伝いにいこうよ」そんな会話がされる日が来たら、日々の生活の豊かさが増すのではないか、そんな風に感じた。

取材・文　小峰結

調布市選挙管理委員会事務局×桐朋女子中高等学校

調布市選挙管理委員会事務局の方へインタビュー

選挙管理委員会事務局は、毎年桐朋女子が選挙啓発に参加しお世話になっているところです。調布駅から歩いてすぐの所にある調布市役所の６階にあります。今回は、選挙管理委員会事務局次長の山岸義大さんにお話を伺ってきました！

調布市選挙管理委員会事務局でのお仕事

主な仕事は公職選挙の実行・管理、選挙の啓発。市民が投票するのに便利な場所に投票箱を設け開票を行うことです。

桐朋女子との選挙啓発の内容

明るい選挙推進協議会の委員、推進員等の方と共に仙川駅ロータリーでウエットティッシュ等の配布物を投票の声掛けをしながら渡します。高校生が活動することで啓発の効果があると喜んでいらっしゃいました。

選挙管理委員会事務局に勤められたきっかけと、選挙への思い

山岸さんは、調布市役所でいくつかの部署を経た後、平成２９年度４月から異動により現在の選挙管理委員会事務局に務め始めたそうです。実際に働いてみると、公務員が一部の奉仕者ではなく全体の奉仕者であるということや縁の下の力持ちみたいな役割が山岸さんに向いていると感じるようになったそうです。

お仕事のやりがいを感じられる時とは

山岸さんがやりがいを感じられるときは、毎年１～２回程度行われる公職選挙を無事執行することができたときや小学校の授業で選挙出前事業を行い，将来の有権者である児童達に、選挙のしくみや意義について心から興味を持ってもらった瞬間などだそうです。他にも色々ありますとのこと。

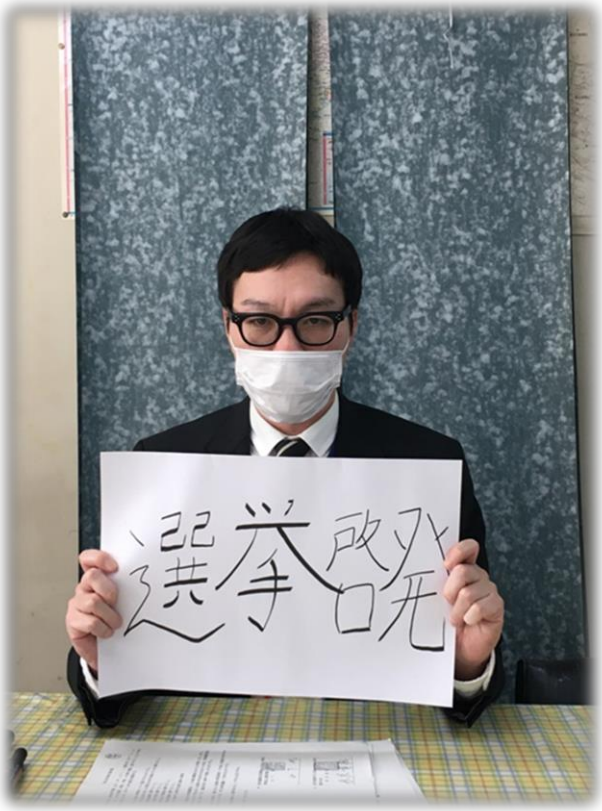
今現在の目標。お仕事を通してどんな地域にしたいか

「地方公務員の仕事の基本は、住民の福祉の増進です。住民の福祉の増進のためには当然少なくないコストがかかりますが、少子高齢化、生産年齢人口の減少などの要因により、従来と比べさらに財政面で益々厳しくなることが予想されます。厳しい状況ではありますが、皆で知恵を絞り、地方自治体、住民、企業、学校、NPO団体等がそれぞれの役割で上手く連携して、力のある者が立場の弱い方に自然と手を差し伸べられるような住みやすく豊かな地域、社会が実現できればと思います。」と答えてくださいました。

桐朋生にどのような形で地域と関わり、貢献してほしいか

授業に励んで基礎学力をつけてほしい、さらに学校のある調布、仙川の地域に愛着を持って考え知ろうとしてほしいとおっしゃっていました。地域の方と関わるためにできることとしては、ゴミ拾いのボランティアへ参加すること、スポーツクラブに入ること、仙川商店街とコラボをすることを例に挙げてくださいました。

桐朋生としたいことをメッセージとして頂戴しました！桐朋生が在学中にできることといえば、やはりこれ！



おまけ

ネット投票は実現するか

個人的に気になったのでお聞きしました！私は若者の心をつかみ選挙の投票率を上げる策としてネット投票が有効だと思っていました。時と場所を選ばないところが一番のメリットだと思いました。

だがしかし、ネット投票実現にはいくつも乗り越える壁がありそうです。

お話を聞いてネット投票実現を妨げる大きな障害になっているのが、公正さが保たれないというリスクだと思いました。具体的には以下のようなケースがありそうです。

・各個人がどの候補、もしくは政党に投票したか分かってしまうこと。

・なりすましや何遍も投票するという行為。

・票の取引、売買。

・データの書き換え

また、ネット投票は密室で行うことができてしまうので信頼性に欠けるそうです。そのためにいくらネット投票が若者のライフスタイルに合っていたとしてもこれらのリスクを排除できるまでは難しいそうです。ネット投票はこうしたハードルの高さから世界ではエストニアの一国でしか行われていないそうです。選挙の告知、候補者の紹介についても同様にＳＮＳの使用はまだ先になりそうです。

やはり投票率を上げるには、一人ひとりの自覚と意志の力が大切だと感じました。誰かが入れてくれるのを待たずに自分の一票を投じる意識と、自分で情報収集をして候補者の考えを知って置くことの二つが投票時に必要だと感じました。

インタビューを終えて

私の拙い質問にも山岸さんは終始よく考えながら、丁寧に答えてくださいました。山岸さんが社会の福祉を第一に考え市民の住みやすい地域・社会を目指していることが分かりました。選挙啓発運動については、桐朋女子が載っている新聞の切り取りのコピーを頂いたので最後に掲載します。昨年は新型コロナのために不参加でしたが、２０１９年度は高校三年生６０名が参

加しました。同企画に参加している小峰結さんも参加しています。選挙啓発のボランティアのいいところは選挙について知ることができる、ボランティアの方含む市民の方と交流できることだと思います。在学中はボランティアとして選挙にかかわり、桐朋女子卒業後にアルバイトが解禁されたら、選挙スタッフとして働くということも可能です。コロナが収まり、何らかの選挙啓発活動ができることを願っています。

インタビュー・文　小川花怜

東部公民館× 桐朋女子中高等学校

東部公民館の方へインタビュー

今回は、学校から徒歩3分の東部公民館の皆さんにお話を伺いました。公民館は地域の方が気軽に来てサークル活動をしたり講座に参加したりできることが特徴で、地域に最も身近な存在と言えるからです。

インタビューには公民館の館長さんと副館長さんのお二人が応じて下さいました。なんと事前に、質問に対するご回答のプリント作成して下さっていました！今記事ではプリントの内容と追加質問したことについて書いていきます。

※分かりやすくまとめるために、実際のインタビューと質問が前後することがあります。

公民館のお仕事内容、されていること

私の言葉でいうと、公民館は市民の相互的な生涯学習を支える社会教育機関のことです。まず公民館が誕生した歴史を教えてくださいました。

《公民館の歴史》

戦後

民主化を進めるにあたり教育の大切さの気づきから国民の社会教育の場として公民館の設置を検討した。

←

昭和21年

「公民館の設置運営について」という文書で、「公民館は全国各町村に設置し、いつでも、町村民が集まって論談し、読書し、生活上・生産上の指導を受け、交友を深める文化的教養機関である」と公表する。

《当時の公民館建設理由の3本柱》

①民主主義と平和主義を身に着けるまで自身を訓練。

②豊かな教養を身につけ、文化の香り高い人格を作る。

③身についた教養と民主主義で、郷土に産業を興し、郷土の政治を立て直し郷土の生活を豊かにする。

《公民館の主なお仕事内容》

①主催事業の実施

定期的に公開講座、企画展、後援会等を実施し人々の学習と地域コミュニティの形成を支援する。（こうした出会いが「学級」というグループでの活動のきっかけにも！）

②団体の育成と支援（＋登録団体の支援＋地域文化祭の開催）

サークル活動など、市民の自発的行動を支援する。（同志による集まりの組織化を支え、その後の活動もサポートをする。さらに発展

し自立して活動できる登録団体を目指す。）地域文化祭は公民館内で行われ、サークル活動の成果を発表したり子供たちと交流したりする場となっている。屋上で手作りの超巨大絵本を紙芝居形式で読み聞かせをする企画も行われた。

③公民館施設の貸出

東部公民館には学習室、大・小の和室、調理室があり、用途に応じ貸出を行っている。

④学習環境の整備（＋施設の維持保全）

図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。

《公民館の仕事の中核》

公民館のお仕事の肝となるところは、地域に身近な社会教育施設として、住民同士の相互学習の体験を通して、連帯し、学びの成果をまちづくりに生かそうとする市民活動を支援すること。

以下の 3 点に詳しく言い換えることができます。←

① 公民館で学ぶ市民は、興味・関心を共有できる仲間とのおしゃべり・対話・会合などを通じて、他者を尊重する気持ちや建設的な話し合いを学習することができる。また、改めて日常の拠点である地域と地域の人に目を向けることができる。

② 生涯学習という長期的な時間軸の中で、自らの自由な意思と気づきで、必要に応じて好きなことをより発展させるため、又は、地域の困りごとを解決するために連帯することもできる。

③ 公民館は、知縁（知恵と成果を活かす人の縁）で結ばれる地域コミュニティの維持発展を支援していく。

《公民館の学習環境》

市民として学び・成長するための時間（生涯学習として時間をかけて学ぶことができる）、空間（公民館という地域に身近な拠点）、仲間（サークル等の仲間）、プログラム（主催授業や地域文化祭など）、支援策（職員や制度による支援など）などの学習環境が一体となっている。

お仕事を通してどんな地域にしたいか

先述の公民館の中核に加えて、

地域に根差した身近な社会教育施設である公民館は、「好きだから学び、楽しいから集い、幸せだからつながりたい。」という人間の根源的な欲求や、「困ったから学び、心配だから集い、よりよくしたいからつながりたい。」という市民ニーズに応えられるよう努めていくとおっしゃっていました。その先には、調布市基本計画の

「皆が笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」というまちの将来像があります。

公民館に務められたきっかけと、お仕事に対する思い

副館長さん（鈴木秀明さん）

鈴木さんは元々市の職員でしたが、2年ほど前から配属先の東部公民館で働き始めました。公民館の在り方を考える中で、鈴木さんは公民館が「地域の核、コミュニティの中核」である必要性を感じました。公民館としてのそうした役割を十分に果たすために、まずは桐朋生含む地域の人に存在を認識してもらい、利用してもらいたいとおっしゃっていました。

館長さん（早野賢二さん）

早野さんも、鈴木さん同様異動により1年ほど前から東部公民館で働くようになりました。早野さんが最初にしたことは、公民館の必要性を問い直すことでした。なぜ公民館があるのだろうか、他が有料で行うようなことを無料で提供するのはどうしてか。こうしたことを考え、たどり着いた公民館の存在意義が手厚いサポートでもって人々の縁を取り持つことでした。公民館は、生涯学習を支えるのに必要な空間も時間も仲間もプログラムも支援策も全てがフルセットで揃っているのが魅力です。それを用いて好きなことや深めたい学びについて同志とともに知縁を深める。一方では少子高齢化社会の中、公民館で育む地域の人々の地縁を共助に活かす。知縁と地縁の両方を大変重視しながらお仕事をされている印象を受けました。

さらに、現在は地域のまちづくりに関する仕事の希望者が減少傾向にあることを挙げて、こうしたことに興味関心を持つ人を増やしたい、一隅を照らしたいと話してくださいました。実は、こうした仕事をしている人の元を辿ると、※子供会出身であることも多いそうです。お母様方が、子供会に参加し仕切りが上手くなった結果、PTA役員に立候補しリーダーシップを発揮する、そこからさらに青少年健全育成の団体に関わり、最終的にまちづくりに携わるなんていう経歴もまれではないようです。また、今現在公民館に通われる方の中でも幼いころに公民館で遊んでいた経験をお持ちの方もいらっしゃるので、小さな時から公民館で遊び学ぶ経験を通して公民館に再度通うようになる人や地域に関わりたいと思う人を増やしたいとおっしゃっていました。

※子供会とは子供の健やかな成長を促す様々な経験の機会を与える活動。幅広い世代の大人、学校や児童館などがかかわり成立する。

桐朋生にどのような形で地域と関わり、貢献してほしいか

公民館は、市民の一人ひとりの主体的な学び、活動を支援するところ。一緒に考えていきましょうとのことでした。高校生が様々柔軟

な発想でボランティア活動等を頑張っている姿は大人も励まされるとのことでした。

桐朋生と一緒に取り組みたいこと

職員の方と何が出来たら理想かを考えている中で以下のような案が出ました。

・「小学生に調べ学習を教えたり、一緒に工作をしたりしてあげてほしい。」

・「ダンスサークルにダンスを教えてあげてほしい。」

・「はじめてスマホを扱う方々に操作を教えてあげてほしい。」

・「桐朋生の平面の美術作品を飾らせてほしい。」

普段関わりのない方と交流できるとってもいい機会です。教える内容も難しい技術を必要としないものが多いので、実行が決定したら気軽に参加してほしいと思います。

インタビューを終えて

公民館へは3度お訪ねしていることもあり、多くの職員の方とお話することができました。皆さんとても優しかったのでインタビュー時の緊張も一瞬で過ぎ去りました！お二人のお仕事に対する熱意が本当に素敵だと思いました。職員の皆さんが常に地域の方を第一に考えているおかげで公民館に来られる方々がイキイキと楽しそうにしているのだと改めて感じました。また一部では既に公民館と桐朋のつながりがあったことに驚きました。公民館の企画では桐朋学園と関係のある方々が講師やコンサートの演奏者として参加することも珍しくありません。地域の方々が桐朋の見学ツアーに来られたこともあります。これからはより多くの企画を行って幅広く関われたらと思います。

公民館の施設紹介

この他に学習室と会議室もありました！

奥まで続く広い畳部屋

調理実習を思い出す調理室

可愛らしい保育室

学校のすぐそばにこんなあたたかい場所があります！
皆さんぜひお友達と訪れてみてください。

公民館の職員の皆さん。お願いをして、桐朋生に向けてやりたい事や、してほしいことを書いていただきました！

① 公民館の文化祭に参加してください。

② いろいろな事業の先生になってくれるといいな。

③ 公民館の事業に参加してください。

左から永井知江さん、矢ケ崎敏夫さん、早野賢二さん、鈴木秀明さん、岩舘聖恵さん

編集後記

今回、私は選挙管理委員会事務局と東部公民館にインタビューをしましたが皆様がそれぞれに地域のことを思って、活動されていることがよく分かりました。社会をよりよくしていく意思や熱意、素敵な考え方を受け取ることが出来ました。今回の経験を活かして地域と桐朋女子の結びつきをより加速させたいです。吉崎先生の授業もインタビューも初めてのことでしたが、校外でこのように動かなければ、このような気づきがなかったと思うと、本当に参加して行動してよかったと感じました。企画の考案者の小峰さん、４人皆でやろうよと言ってくれた髙崎さんと渡邊さん、サポートをしてくださった吉崎先生にもとても感謝しています。

インタビュー・文　小川花怜

公民館は

- あなたの生涯学習を応援する社会教育施設です。
- さまざまな学習や文化活動をとおして地域のコミュニティづくりをすすめています。
- 子どもからお年寄りまで、だれもが自由に学ぶことができます。

集い 地域に根ざした事業を行います。
- 市民どうしの出会いを大切にし、市民の集いの場・いこいの場を提供します。

学び 市民の学習要求にこたえ、教養と文化を高める事業を行います。
- 講演会、講座、文化教室、学級など
- 文化祭、フェスティバル、コンサート、展示会など

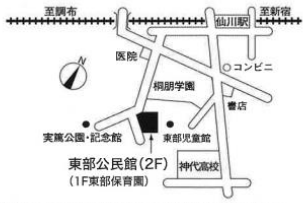
結ぶ 地域の連携を深める事業を行います。
- 地域団体との協力や連帯を強めます。
- サークル活動など、市民の自主活動を支援します。

東部公民館

〒182-0003　調布市若葉町1－29－21
☎03-3309-4505

東部公民館は、国分寺崖線の緑豊かな住宅地に位置し、地域の皆さまの学習と文化活動の拠点としてご利用いただいています。施設には学習室、会議室、大・小の和室、調理室があり、用途に応じた学習に活用されています。また、近隣には桐朋学園・東部児童館・実篤記念館・若葉図書館・せんがわ劇場などがあり、互いに連携を図りながら地域に根ざした公民館として活動をしています。

- 開　館　昭和50年6月
- 敷地面積　2,185㎡(保育園・児童館含む)
- 延床面積　413㎡(2階公民館部分)
- 構　造　鉄筋コンクリート造2階建



※駐車場がありませんので車での来館はご遠慮ください。

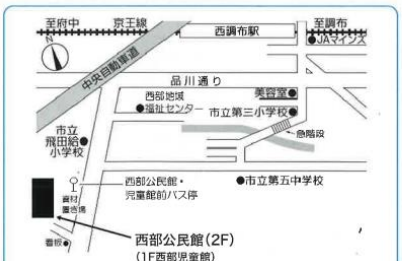
京王線／「仙川」駅下車　南西へ徒歩8分

西部公民館

〒182-0035　調布市上石原3－21－6
☎042-484-2531

西部公民館は、児童館と併設された施設で、広いロビーを中心に学習室や実習室、和室があり、開放感にあふれています。近隣には小中学校・保育園・図書館などの公共施設もあり、幅広い世代の人々が集う場所にあります。また、多摩川に近く自然に親しむ環境にも恵まれています。西部公民館はこれらの地域特性を生かした公民館活動を進めています。

- 開　館　昭和58年6月
- 敷地面積　3,199㎡
- 延床面積　550㎡(2階部分)
- 構　造　鉄筋コンクリート造2階建



京王線／「西調布」駅下車　南西へ徒歩15分
バ　ス／京王線調布駅南側ロータリーより「飛田給駅北口行き」で「西部公民館・児童館前」下車徒歩1分

北部公民館

〒182-0014　調布市柴崎2－5－18
☎042-488-2698

北部公民館は、絵画や陶芸に適した美術室、コーラスや器楽練習用にピアノやドラムセット等を備えた防音学習室、そして炉や水屋を配した本格的な茶室など、文化活動のための設備が特徴です。豊かな緑に囲まれた上ノ原公園に隣接し、見晴らしの良い高台に位置する環境のなかで、学習や文化活動の場としてご活用ください。

- 開　館　平成元年6月
- 敷地面積　1,273㎡
- 延床面積　743㎡
- 構　造　鉄筋コンクリート造地下1階地上2階建

京王線／「柴崎」駅下車　北へ徒歩15分
バ　ス／・京王線つつじヶ丘駅北口より「深大寺行き」で「見晴学園」下車
・京王線調布駅北側ロータリーより
①「杏林大学病院行き」で「見晴学園」下車
②「上ノ原小学校行き」または「深大寺住宅行き」で「上ノ原公園」下車

東部公民館だより

11月号
令和2年11月1日
No.376

発行●調布市東部公民館　〒182-0003 調布市若葉町1-29-21
TEL (03)3309-4505　FAX (03)3305-3456

東部コンサート

二台のヴァイオリンとピアノによる 音楽の贈り物

11/28(土)

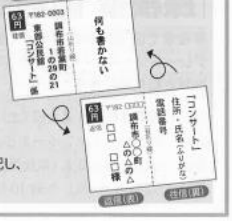
コンサートから遠ざかる状況だからこそ、コロナ対策を徹底しつつ、東部公民館から会場を「せんがわ劇場」に移し、音楽の力で皆さんに"元気"をお届けします。桐朋学園のフレッシュで優秀な学生さんお二人のヴァイオリンと、佐々木さんのピアノによる素敵な音楽の贈り物をお楽しみください。

飯塚 歩夢さん（ヴァイオリン）

趙 賢真さん（ヴァイオリン）

佐々木 京子さん（ピアノ&ナビゲーター）

日時／11月28日(土) 午後2時～3時30分（開場：午後1時30分）
会場／せんがわ劇場（京王線仙川駅徒歩4分）調布市仙川町1-21-5
曲目／バッハ　2台のピアノのためのコンチェルト第2楽章
サラサーテ　ツィゴイネルワイゼン
ラヴェル　ツィガーヌ　ほか
対象／調布市民（未就学児の入場はご遠慮ください）
定員／50人（多数抽選。全席指定＊抽選で決定・席は選べません）
費用／無料　持物／当選はがき、マスク
申込／往復はがきに住所、氏名（ふりがな。家族・友人とも本人を含め2人まで連記可）、お子さんは学年、電話番号、返信用宛先を明記し、11月12日(木)（必着）までに東部公民館「コンサート」係へ



東部公民館だより

2月号
令和3年2月1日
No.379

発行●調布市東部公民館　〒182-0003 調布市若葉町1-29-21
TEL (03)3309-4505　FAX (03)3305-3456

平和フェスティバルⅡ

戦争と子ども 戦災孤児の私が歩んできた道

若葉町在住の元木さんは、60歳を過ぎて、桐朋学園短期大学の社会人コースに入学し、4年間声楽を学び、現在、月2回は東部公民館の「日本史を学ぶ会」の例会に参加している意欲的な女性です。戦災孤児であるご自身の体験を「語り部」として話す活動も、30年以上続けています。

話しておきたいことと同じくらい、話したくないこともあるといいます。少女だった戦中・戦後から、女性として、母として生きた昭和30年代以降まで、元木さんの原点になっている「戦災孤児」の体験を中心に、画像と資料を見ながらお話をお聞きします。

日時／3月6日(土) 午後2時～4時
会場／東部公民館　学習室
講師／元木　キサ子さん（若葉町在住・戦争語り部）
対象／市内在住者
定員／申込み順24人
費用／無料
持物／筆記用具、マスク
申込／2月24日(水)午前9時から電話または直接東部公民館へ

巡回展　広島平和派遣ピースメッセンジャー　メッセージボード巡回展「つながる」　開催中

公民館諸室の利用制限について

新型コロナウイルス感染拡大に伴う国の緊急事態宣言及び東京都の緊急事態措置の実施に伴い、令和3年1月9日(土)から同年2月7日(日)までの期間中、次のとおり、公民館諸室の利用を制限させていただいています。

夜間区分の貸出しの休止
夜間区分(午後5時30分から午後9時30分まで)の貸し出しを休止します。
※午前区分(午前9時から午年)と午後区分(午後1時から4時30分)はご利用いただけます。

公民館諸室の利用制限
諸室の利用定員を一律「定員の50%以内」とさせていただくとともに、館内での水分補給以外の飲食を改めて中止とさせていただきます。
※公民館の窓口受付・問い合わせ時間は、午前9時から午後5時15分までとなります。

令和3年1月9日現在

＊催物の開催期間の変更、中止の際はご容赦ください＊

東部市民講座

しめ縄・しめ飾りを知る・作る

全2回

しめ縄・しめ飾りの由来や意味を知り、藁から作ってみませんか。

日程・内容

①**12月22日(火)**　しめ縄、しめ飾りの由来と縄ない

②**12月24日(木)**　しめ飾りを作る

時間／午前10時～正午

会場／東部公民館　学習室

講師／棚橋 早苗さん（武蔵野美術大学講師）

対象／2回とも参加できる市民

定員／申込み順12人（初参加優先）

費用／1,000円（材料費。初回持参）

持物／霧吹き（あれば）、エプロン、古タオル、替えの靴下

申込／12月9日（水）午前9時から電話または直接東部公民館へ

東部地域文化祭

希望の明日へ　文化のこころを

10月31日(土)～11月8日(日) 実施

▲文化祭(展示)の様子

今年の「東部地域文化祭」はお楽しみいただけたでしょうか。

活動自粛を余儀なくされたコロナ禍での開催でしたが、発表の場に相応しく素晴らしい作品が数多く展示され、サークルの方々の日々たゆまぬ努力の賜物と感じ入りました。

また、新たな取組の「プレ文化祭」では、複数名のサークル入会者をお迎えできたことはとても意義深く、次年度への最高のエールだと思います。

諸先輩方のご苦労と喜びで、連綿と受け継がれたこの文化祭を、絶やすこと無く開催できましたのも偏にサークルの方々、役員の力添え、事務局の方々のご尽力のお蔭です。そして、絵画の展示協力を頂いた第四及び第八中学校美術部、滝坂小学校わかくさ学級の皆様にも感謝の念で一杯です。この紙面をお借りし、関係されました皆様に改めて御礼申し上げます。　　東部公民館実行委員長　高山　登志子

◀プレ文化祭(公開)の様子

利用定員を緩和しました。

諸室の利用定員については、これまで一律「定員の50%以内」での利用をお願いしておりましたが、市の感染拡大防止ガイドライン(※1)の見直しに伴い、令和2年11月10日（火）から、「定員の100%以内（通常定員）」でご利用いただけるようになりました。

ただし、感染リスクが高い利用（**①歓声・声援等を発するもの、②歌唱の実態があるもの、③マスクを外さざるを得ない活動**(※2)）**についてはこれまでどおり「定員の50%以内」**での利用となります。

＊1　調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン
＊2　管楽器の演奏、スポーツ吹き矢、茶道、調理室の使用に伴う食事など

●J:COM調布では調布市の情報をコミュニティチャンネルでご案内しております。フリーダイヤル0120－999－000

東部市民講座

仙川(せんがわ)～学び・歩き1（地形）

立体地図を作って地元・仙川の地形を学び、それを持ってご自分の目で確かめながら歩いてみませんか。予備日も含め、参加できる日程を1つ選んでお申し込みください。

内容／**講義**　「仙川の国分寺崖線」立体地図作りと解説（A・B共通）

散歩　若葉町～入間町付近（集合・解散　東部公民館）

日程

A	講義 12月16日(水) 午前10時～正午 散歩 12月16日(水) 午後1時～3時 (1月13日(水) 予備日) (注) 講義後学習室で昼食がとれます	
または		
B	講義 12月16日(水) 午前10時～正午 散歩 12月17日(木) 午前10時～正午 (1月14日(木)　予備日)	

会場／東部公民館　学習室（講義のみ）

対象／2時間自力で歩ける健脚な市民　※はき慣れた靴で

定員／各日程申し込み順10人（A・B同内容）　**費用**／無料

持物／はさみ、スティックのり、昼食（A日程のみ）、筆記用具、マスク

申込／12月8日（火）午後2時から電話または直接東部公民館へ

その他／散歩は荒天時予備日あり

※Aは1月13日（水）、Bは1月14日（木）に延期

※散歩前日の午後4時～5時に電話連絡

学び・歩き講師　森　茂さん
（元桐朋女子中・高等学校教諭）

仙川(せんがわ)～学び・歩き2（歴史）

地元・仙川の歴史を学び、歴史の教科書に登場する人物のゆかりの地を探してみませんか。予備日も含め、参加できる日程を1つ選んでお申し込みください。

内容／**講義**　「仙川・歴史上の有名人ゆかりの地」（C・D共通）

散歩　仙川町～三鷹市新川団地付近（集合：仙川駅前桜の木の下、解散：新川団地中央バス停）

日程

C	講義 1月14日(木) 午後1時～3時 散歩 1月21日(木) 午後1時～3時 (1月28日(木)　予備日)
または	
D	講義 1月14日(木) 午後1時～3時 散歩 1月22日(金) 午後1時～3時 (1月29日(金)　予備日)

会場／東部公民館　学習室（講義のみ）

対象／2時間自力で歩ける健脚な市民　※はき慣れた靴で

定員／各日程申し込み順10人（C・D同内容）　**費用**／無料

持物／筆記用具、マスク

申込／12月23日（水）午前9時から電話または直接東部公民館へ

その他／散歩は荒天時予備日あり

※Cは1月28日（木）、Dは1月29日（金）に延期

※散歩前日の午後4時～5時に電話連絡

●催物の開催日程の変更、中止の際はご容赦ください

●調布FM放送局はFMラジオ83.8メガヘルツで放送。地域情報・生活・行政情報・防災情報などご利用ください。042-483-0838

メンバー

小川花怜
小峰結
高崎晴菜
渡邊貴子

先生
吉崎亜由美先生